いしかわ労福協

第 576 号　2016年1月25日

発 行 所　石川県労働者福祉協議会
発行責任者　西田　満明
編 集 人　上野　貞彦
〒920-0024　金沢市西念3丁目3番5号
電話（076）231-1737
FAX（076）231-1731
http://www.ishikawa-rofukukyo.jp
info@ishikawa-rofukukyo.jp
毎月1回 25日発行

謹賀新年

あえのこと　　©石川県観光連盟

石川県労働者福祉協議会
理事長　西田　満明

新年あけましておめでとうございます。2016年が皆様にとって明るく実りの多い年となるようお祈り申し上げます。

昨年中は各自治体や、労働団体、事業団体をはじめ、関係各位の皆様にご支援・ご協力を頂きました、心から御礼申し上げます。

石川労福協はこの一年、ライフ・サポートセンターが中心となり、「暮らしの総合サポートセンター」として、「子育て支援」「福祉なんでも相談」「無料職業紹介」「会員事業団体支援」を中心に働く者の生活と福祉の向上をめざし活動を展開してきました。

しかし、非正規労働者の割合が全雇用者の4割を突破する中、正社員を希望しながら非正規で働いている人は315万人、年収200万円以下のいわゆるワーキングプア（働く貧困層）は約1,100万人、生活保護受給者は217万人に達しています。このため、結婚したくてもできない人、また、子どもを産み育てるのを諦めざるを得ない人もいるなど、経済的な理由により少子化に拍車がかかっている実態を見なければなりません。

今こそ、労福協など労働者福祉団体が培ってきた共助の輪が必要です。「連帯と相互の支え合いという協力原理が活かされる社会、ぬくもりある思いやりの社会、人とくらし・環境に優しい福祉社会」の実現ため、関係各位の皆様のご理解とご協力をお願いし、新年の挨拶とします。

石川労福協・連合石川 2016 新春の集い

西田労福協理事長
（連合石川会長）

石川労福協と連合石川は、合同で 2016 新春の集いを１月５日（火）に ANA クラウンプラザホテル金沢において開催した。

新春の集いには、労働者福祉事業団体、地域ライフ・サポートセンター、連合石川構成組織に加え、谷本正憲石川県知事や自治体首長などの来賓を交えた 262 名が参加し、冒頭、ジャズバンド「ニアネス オブ ユー」の演奏によるウェルカム演奏に続き「バラ色の人生」など３曲が演奏され、華やかな雰囲気のオープニングでスタートした。

西田満明労福協理事長（連合石川会長）は「2016 年は『クラシノソコアゲ応援団！　2016RENGO キャンペーン』として、働く者の立場にたち、働く者が報われる政策を浸透させ、伝えることで広く国民にも共感を広げ、大きなうねりを作っていかなければならない。そこで、一つ目の『[底上げ・底支え］［格差是正］で経済の好循環！』については、非正規労働者が全雇用労働者の４割を突破し 315 万人、年収 200 万円以下のワーキングプアは約 1,100 万人、生活保護受給者 217 万人に達する現状から結婚や子育てを諦めざるを得ない若者が多く、少子化へ拍車がかかっている。働く者すべての人の底上げを目的に、2016 年春季生活闘争では、内需主導の安定成長を実現するために月例賃金の引き上げにこだわり、底上げ、格差是正を重視した取り組みとしたい。二つ目の『安全・安心のセーフティネットの構築！』については、社会保障と税の一体改革、育児・介護休業制度の改善、子ども・子育て新制度の拡充、年金積立金の健全な運用などを通じ安心・安全のセーフティネットを構築することで、国民・県民が希望を持って働き、安心して生活していくことができ経済の活性化につなげること。三つ目の『すべての人にディーセント・ワーク、すなわち働きがいのある人間らしい仕事を実現！』については、労働者保護ルールはディーセント・ワークの土台と捉え、働くことを軸とする安心社会の実現のため、男女の仕事と生活の両立支援策の充実、マタハラ防止法の促進などに取り組むこと。四つ目

「ニアネス オブ ユー」の演奏

谷本石川県知事

中島石川労働局長

粟野々市市長
（県市長会副会長）

近藤和也民主党石川県連
総支部連合会代表

盛本芳久社民党石川県連合代表

乾杯

石坂県議会会派「未来石川」代表

岩淵法曹団代表

柴田参議院議員選挙候補予定者

の『健全な民主主義を取り戻そう！』については、政治と暮らしは密接に結びついていることを再認識して働く者の生活向上につながる政党・政治家を見極めて支援し与党一党支配の現状を打破することにそれぞれ取り組んでいかなければならない。加えて労働者福祉事業では、発足当時の共助が、今こそ働く人のため地域の皆さんにおいて必要としており『連帯と相互の支え合いという協力原理が生かされる社会、ぬくもりある思いやりの社会、人と暮らし・環境にやさしい福祉社会』の実現に一致団結して取り組みたい。」と新年の挨拶をした。

浅野労福協専務理事

また、谷本正憲石川県知事が「昨年開業した北陸新幹線による効果は絶大なものであるが、賑わい過ぎて悪影響を及ぼす部分もあり負担をかけているが、人材確保などにより問題解決への企業努力を期待している。働く人のためにも新会長下における春季生活闘争の成果を大いに期待したい。」としたほか、中島理章石川労働局長、粟貴章野々市市長（県市長会副会長）、各政党代表が労働者をはじめ県民市民がより安定した社会の実現に努力をするべく挨拶があった。

ガンバロウ三唱

このほか、来賓の政党代表者の祝辞に続き、今夏の参議院選挙に出馬予定で連合石川推薦の柴田未来氏が出馬に向けた意気込みを発表し支援を求めた。

南高弘連合石川会長代行が、春季生活闘争の成功と労働者福祉向上に向けての乾杯を発声して歓談に入った。

歓談中には、石坂修一石川県議会会派「未来石川」を代表し、また、岩淵正明連合石川法曹団代表のスピーチを受けた。

浅野正石川労福協専務理事が「労働福祉の向上と働く者の格差是正などに向けて、共に力を合わせていきたい。皆さんのご協力を願う。」と閉会の挨拶を行った後、西田理事長（会長）の音頭で“団結ガンバロウ”を三唱し、2016年のスタートを切った。

これからの行事予定

（1月25日現在）

開催日	曜日	行　事	会　場
1月25日	月	中部労福協 第4回幹事会（～26日）	大阪市
26日	火	北陸労金本店 書記・事務担当者研修会	ANAHin 金沢スカイ
28日	木	七鹿・羽咋地協・七鹿LSC・羽咋LSC合同 2016年新春旗開き	いこいの村能登半島
29日	金	労福協・LSC 第16回LSC事務担当者研修会	フレンドパーク石川
2月2日	火	三重県労福協・地区労福協が視察	〃
4日	木	第87回メーデー実行委員会	〃
5日	金	金沢FSC提供会員交流会	金沢市教育プラザ富樫
9日	火	北陸労金理事・監事、運動推進委員合同会議（～10日）	のとや
16日	火	労福協 第39回労福協研究集会	フレンドパーク石川
24日	水	中部労福協 第43回定期総会（～25日）	姫路市
26日	金	労福協 第8回理事会	フレンドパーク石川
3月2日	水	労福協LSC 代表者会議	〃
5日	土	さわやかU 15周年式典、感謝の集い	ANAHin 金沢スカイ
8日	火	中部会館協 第3回幹事会（～9日）	京都市
10日	木	中央労福協 第3回地方労福協会議（～11日）	東京
17日	木	全国会館協 第2回幹事会（～18日）	金沢市

石川県知事
谷本　正憲

明けましておめでとうございます。皆様におかれましては新春をご健勝でお迎えのことと心からお慶び申し上げます。また、日頃から県政の推進にご理解とご協力を賜っておりますことに、心から感謝申し上げます。

昨年３月14日、県民の40年来の悲願でありました北陸新幹線金沢開業が実現いたしました。新たな年を迎えた今も、国内外から多くの観光客が、金沢だけでなく加賀や能登に訪れるなど、開業効果が持続し県内全域に波及しています。

開業２年目となる本年は、開業効果をさらに持続・発展させ、本県の活性化につなげていくための大変大事な年であります。引き続き、首都圏をはじめとする全国への情報発信や石川の魅力の磨き上げなどに取り組んでまいります。

地方創生が国・地方を通じた大きな課題となる中、昨年、本県人口の50年後の将来展望を盛り込んだ「いしかわ創生人口ビジョン」と今後５年間の具体の行動計画となる「いしかわ創生総合戦略」を策定いたしました。北陸新幹線開業はもとより、モノづくり産業や高等教育機関の集積、質の高い文化、豊かな自然、充実した子育て環境など本県の強みを最大限に活かし、社会減対策と自然減対策の両面から全力で地方創生の推進に努めてまいります。

貴協議会におかれましては、就業等の各種相談への対応や仕事と育児の両立支援など、本県の労働者福祉の向上に多大なご尽力をいただいており、心から感謝申し上げます。

この新しい年が皆様にとりまして、明るい展望の持てる年となるよう心からお祈り申し上げますとともに、県政に対する一層のご支援、ご協力をお願い申し上げ、新年のご挨拶といたします。

蔵六園　©石川県観光連盟

石川県市長会
会　長　山野　之義
（金沢市長）

新年あけましておめでとうございます。皆様方には、輝かしい新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

また、日頃から県内各市の市政推進に多大なご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年は北陸新幹線金沢開業という歴史的節目を迎えたことに加え、NHK連続テレビ小説「まれ」の効果もあり、能登から加賀まで県内各地へ国の内外から大勢の方に訪れていただきました。この交流人口の増加をいかにして定住人口の増加に繋げるかが、今後、私どもが取り組むべき課題であります。そのため県内各市では、定住促進やUJIターン就職、さらに子育て支援の充実など、それぞれの特色を活かした施策を展開するとともに、互いに連携を図りながら、魅力と活力に満ちた地域づくりに全力で取り組んでまいりますので、皆様方のさらなるご支援とご協力をお願い申し上げます。

北陸の経済情勢を振り返りますと、回復基調を維持し、雇用情勢についても着実に改善がみられた１年でありました。しかし一方では、人手不足が深刻な状況となり、職種によっては技術の継承が危惧されるなど、今後は、いかにして人材を確保するかが課題となっております。

こうした中、私どもは、雇用安定のための各種奨励金の交付や地元企業と学生をつなぐ就職支援、さらには若年者や女性の処遇改善に取り組むなど、様々な施策を展開してきたところであり、引き続き市民生活の安定に万全を期してまいる所存であります。

新しい年が、皆様方にとりまして、明るく良い年になりますことを心からご祈念申し上げますとともに、本年も一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げまして、新年のご挨拶といたします。

石川県町長会
会　長　杉本　栄蔵

新年あけましておめでとうございます。

輝かしい平成28年の新年を清々しくお迎えのこととお慶び申し上げます。

皆様には、各町政の推進につきまして多大なご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

本年も、県内各町の振興発展と住民福祉の向上に決意新たに取り組みますので、一層のご支援とご協力をお願いいたします。

さて、昨年3月の北陸新幹線の開業以来、北陸各地とりわけ金沢を中心にその恩恵が広がっているように感じますが、県内各町のまちづくりや地域活性においても千載一遇の機会であり、新幹線の効果が、更に広く深く浸透し定着させるよう諸施策を講じていくべきと考えております。

また、平成27年度中には各自治体が、将来に向けた地域創生の総合戦略をそれぞれに策定し、各地域における少子高齢化を含む人口減少への対応と地域活力の維持・向上に取り組むこととといたしております。

今後は、各町が地域の皆さんと力を合わせて推進し、併せてその成果を検証し、実現していくこととしていますので、ご理解とご協力をお願いするものでございます。

石川労福協並びに関係各位におかれましても、豊かで快適な暮らしと安心できる地域づくりのため、また、各地域が若い世代から次の世代へと夢と希望を繋いでいけるよう、より一層のご協力をお願い申し上げますとともに、本年が皆様にとって健康で幸多い一年でありますよう心よりお祈りしまして、年頭のご挨拶といたします。

労働者福祉中央協議会
会　長　神津　里季生

新年明けましておめでとうございます。

いま日本は、雇用の劣化、貧困や格差の拡大等、社会の持続性が問われています。次の時代を担う多くの若者も、奨学金という多額の借金を背負い苦しんでいます。社会全体で若者を支えていくため、給付型奨学金制度の導入・拡充等を求める署名活動に全力をあげ、広範な世論のうねりをつくっていきましょう。

中央労福協は、「連帯・協同でつくる安心・共生の福祉社会」に向けて、再分配機能の強化や社会的セーフティネットの充実など「公助」機能の強化を求める運動と、自ら「共助」機能の発揮を強める運動を、車の両輪として進めてまいります。また、生活困窮者自立支援制度を通じた地域づくりや、ライフサポート活動の深化にも取り組んでいきます。これまでの労福協運動の原点をしっかりと継承・発展させ、労働組合と労働者自主福祉団体、協同組合との連携を強固なものにし、職場に、地域に、共助の輪を広げていきましょう！

波の華　　©石川県観光連盟

２０１６年　迎　春

㈳石川県労働者福祉協議会
理事長　西田　満明
役職員一同

北陸労働金庫
石川県本部長　柚木　光

新年明けましておめでとうございます。旧年中は北陸労働金庫の事業推進に対しまして労福協をはじめ各事業団体、そして各会員組織の皆様より多大なご支援ご尽力を賜りました。厚く感謝と御礼を申し上げるしだいです。

さて新年早々、あまり明るくない話題からで恐縮ですが、勤労者・生活者を取り巻く情勢は好転するどころか、年を追うごとに厳しさを増しているというのが実情ではないでしょうか。昨年は年金制度におけるマクロ経済スライド制度実施、介護保険制度改正、労働者派遣法改正、そして安保法制成立等、勤労者・生活者の視点に立っているとは思えない施策が目白押しでした。経済でも円安・株高は一部大企業にはメリットがあるものの、中小・地場産業にはなかなかそのメリットは反映されず、そこに働く圧倒的多数の勤労者の賃上げも納得のいく状況には程遠く、日本ではかつてない格差社会が進行しています。

一方、世界でも昨年は「イスラム国」なる狂信集団によるテロ行為が頻発し、それに対する暴力の応酬といった戦争状態が日常化しつつあります。また世界経済を牽引してきた中国経済の著しい成長鈍化は、今後、日本にも大きな影を与えかねません。こうした情勢の中、新年を迎え、わたしたち勤労者・生活者が当面、とり組まなければならないのは、これまで以上に共助の輪を広げ、情報を共有し、団結力を高めることだと確信するものです。

今年10月、北陸労働金庫は設立15周年という節目を迎えます。昨年、10月よりプレキャンペーンをこの3月いっぱいまで展開させていただいています。勤労者・生活者の暮らし応援を最大の事業目的とする唯一の福祉金融機関としてこの間、北陸労働金庫は皆様に支援され大きく育てていただきました。皆様のさらなるご支援をいただき何とかこの3月期末には石川地区として2期ぶりの個人融資残高期首増を実現したいと決意を新たにしているところです。結びに本年「申年」が皆様にとってさらなる飛躍の年となりますようご祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

全労済石川県本部
本部長　光林　邦彦

新年明けましておめでとうございます。

旧年中は「全労済石川」ならびに「石川共済」の事業推進に、格段のご理解とご協力を賜わり厚く感謝を申し上げます。

私たち全労済は「みんなで助け合い、豊かで安心できる社会づくり」を理念に共済事業を進めています。人口の減少、高齢化、格差、貧困、社会的孤立の拡大等をはじめとした社会構造の変化の中で、労働者や市民の暮らし全般にかかわる支援（サポート）事業の重要性は、これからますます高まると思われます。そのことから言えば、労働者自主福祉運動の一翼を担う「全労済」の役割は大きいと自負しております。

このような中、全労済は2017年に創立60周年を迎えます。発足当時は、労働者（労働組合）にとっては厳しい社会環境でありましたが、労働者が自らつくった「共済事業（組織）」としてこれまで大きく成長してきました。全労済はこの60周年を節目として、今一度労働者自主福祉運動の原点に立ち返り、これまで組合員とともに歩んできた歴史を糧に、これからも組合員、会員の「共感・参加・信頼」を得て、より魅力的な「保障の生協」となるべく、役職員一丸となって様々な課題に取り組んでいきます。

さて、本年度は、「純増目標11万7千口」を事業目標に活動を行っております。具体的には、「類焼損害補償特約」や「個人賠償責任共済」を新たに備えた「住まいる共済」を最重点共済と位置づけ、本年2月に制度改定となる「マイカー共済」、さらに「団体生命共済」、「自賠責共済」を重点共済として取り組んでいきます。

加えて、「離・退職者対策」、「新入組合員・若年層対策」を進め、各産別や連合・労福協・ライフサポートセンターとの連携を図りながら、北陸ろうきん・指定整備工場・各会員生協における「共済代理店」と共に、推進活動を強化して参ります。組合員・協力団体の皆様の絶大なるご理解とご協力をお願いいたします。

本年が皆様にとって健康で、良い年になります事をご祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせて頂きます。

ボラ待ちやぐら　©石川県観光連盟

㈠財)石川県労働者信用基金協会
理事長　宮下　亮

新年明けましておめでとうございます。

旧年中は石川県労働者信用基金協会に対しまして、格段のご理解とご協力を賜り、心より厚く感謝と御礼を申し上げます。

さて、当協会の事業概況としては2015年度上期仮決算において、わずかではありますが「減収減益」の結果となりました。経常収益では保証料や受取損害金が前年同期より多少減少したことから合計では前年同期比4,697千円減の93,350千円となりました。経常費用では求償権で債務不履行３年以上のものや、自己破産等で回収が不可能なものを償却する貸倒損失が前年同期比19,138千円増加したことが大きく影響し、合計では前年同期比14,360千円増の75,961千円となりました。経常外収益としての貸倒引当金戻入益が15,881千円計上されたので、最終的に当期一般正味財産は前年同期比8,701千円減の34,043千円となりましたが、下期に向けて課題を残す結果となりました。

本年は好調が続く自動車ローンや住宅ローンの短期物（３年）に大きな期待をよせるとともに、北陸労働金庫石川県本部とは「北陸ろうきん創立15周年記念キャンペーン」と連動し、さらなる連携強化をはかり、労働金庫の保証機関として一層の活性化につなぎ、取組事業目標を達成し、安定した事業運営に取り組みます。

本年「申年は問題がサル。イヤな事はサル。」と言います。皆様方にとりましてご健勝でご活躍の年となりますようご祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。

石川県生活協同組合連合会
会長理事　横山　和男

新年あけましておめでとうございます。

石川県生活協同組合連合会は昨年創立50周年という節目の年を迎えました。10月10日に50周年記念式典を開催し、労福協をはじめ国会議員、行政、関係団体、全国の生協、生協連元役員、会員生協よりご参加いただき盛会のうちに終了することができました。この日を迎えることができましたのもご支援・ご協力いただいた皆様のお力添えがあってのことと、あらためて深く感謝申し上げます。

現在は８つの会員生協が加盟し、30万人を超える組合員の組織になりました。会員生協の支援・交流、県内連帯の促進と強化に取り組むとともに、消費者組織として食の安全、環境や平和、くらしと福祉、災害支援などの活動を進めてまいりました。東日本大震災の復興支援活動も継続しながら、生協連と会員生協が石川県および19市町すべての自治体と災害時における支援協定を締結しています。

さらには皆様のご協力をいただき、NPO法人消費者支援ネットワークいしかわを立ち上げ、適格消費者団体設立まであと一息というところまでこぎつけました。

今後とも会員生協のもつインフラを活かして、行政や地域の諸団体の皆さまと連携し、県民のくらしと地域に役立つ活動に積極的に取り組んでいく所存です。

本年も何卒ご支援、ご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

一般財団法人 石川県労働者信用基金協会
金沢市西念３丁目３番５号
TEL（076）261－4347

恭賀新年

CO-OP 石川県生活協同組合連合会
金沢市古府２丁目189番
コープいしかわ古府センター2F
TEL（076）259－5962

石川県勤労者体育協会
会　長　高　　芳晴

新年あけましておめでとうございます。

皆様には、健やかに新しい年をお迎えのことと、お慶び申し上げます。

日頃、本協会の事業推進に、県内自治体はじめ各競技団体、企業、労働団体、本協会の役員の皆様に温かいご支援とご協力を賜り、心から厚く感謝と御礼を申し上げます。

昨年のラクビー・ワールドカップにおいて、日本代表チームは、強豪の南アフリカを破る大金星を上げ、日本に勇気と感動を与えてくれました。更に、五郎丸選手のキック前のポーズを真似る子ども達が多く見受けられるとともに、ラクビーブームが再燃いたしました。

一方、金沢マラソンには、全国から多くのランナーが参加し、古都の街並みを走り抜けました。本協会におきましては、ボランティアとして大会運営に協力をさせていただきました。

本協会では、本年も日本で唯一の勤労者のスポーツ団体という特徴を活かし、関係団体との連携を深めるとともに、誰でも気軽に参加できる大会を開催し、職域や地域に生涯スポーツの普及に加え、健康づくりにも貢献して参ります。

結びになりますが、皆様方のご健勝とご多幸をお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

石川県勤労者文化協会
会　長　大樋 長左衛門

新年明けましておめでとうございます。

皆様方にはご清祥にてお過ごしのこととお喜び申し上げます。労働者福祉協議会の皆様をはじめ、連合石川、各事業団体の皆様には日頃から勤労者文化協会へのご厚情に感謝申し上げます。

皆様のおかげをもちまして、昨年は、第65回勤労者美術展をはじめ早春書画･生花展、写真サロン展、絵画･陶芸展を盛大に開催することができました。あらためて御礼申し上げます。とりわけ、金沢21世紀美術館で開催しました第65回勤労者美術展は、アマチュアの方々の登竜門として定着し、昨年を55点上回る285点もの力作が出品されました。また、石川県庁での特別展を含め、訪れた皆様は3,000名を超す盛況振りでした。来場された皆様に感謝申し上げます。今後とも、石川県内における芸術・文化の裾野を広げていくために精進してまいります。

さて、北陸新幹線の開業とともに多くの関東や東北の皆様方が石川県を訪れてくれております。石川県は、伝統と芸術・文化が町と一体化した古式豊かな地です。おもてなしの心を大切にして、石川らしい文化の香り漂うまちとして名に恥じないようお迎えをしていきます。

勤文協は、生涯福祉の向上をめざした労福協の事業の一環として地域貢献を意識しつつ、裾野の拡大と質の向上を目指し各種展示会を中心とした芸術・文化の向上に寄与していく所存です。

本年も勤文協にご支援ご協力を賜りますとともに、皆様方のご健勝とご多幸をご祈念申し上げ新年のご挨拶といたします。

入場無料

第46回石川県勤労者
早春書画・生花展

開催日　2016年1月27日(水)～31日(日)
午前10時～午後6時(最終日　午後1時)
会　場　金沢21世紀美術館 市民ギャラリーA
主　催　石川県勤労者文化協会
後　援　石川県労働者福祉協議会、北國新聞社、北陸放送

ＮＰＯ法人
いしかわ介護ボランティアセンター
代表理事　澤　信俊

新年あけましておめでとうございます。

20 世紀後半のわが国の経済を担ってきた団塊世代が現役を退き、団塊ジュニアが 21 世紀前半期の担い手として期待されています。しかし、彼らを取り巻く環境は大きく変化し、団塊世代の依拠してきた価値観で対応しきれなくなってきました。

多様化と複雑化した国際社会環境の中、グローバルとローカル、富裕と貧困、高齢者と子ども、世界人口の増加と日本の人口減少、世界経済のブロック化とアジアの地域経済、民族と宗教、戦争と平和といった対立項を意識し判断することが求められています。私たちに今求められていることは、失われた哲学と思想を復権することであると思います。

日本人の特性は寛容であるといわれますが、「言われるがまま」、「なされるがまま」、「おまかせ」とは異なり、寛容であることは、思いやりのあることです。この寛容の哲学を基に一億総活躍社会が形成されることが大切です。

昨年 11 月に一億総活躍国民会議が発表した『成長と分配の好循環の形成に向けて』で、「若者も高齢者も、女性も男性も、障害や難病のある方々も、一度失敗を経験した人も、みんなが包摂され活躍できる社会」を目指すことを謳っていますが、人間として生きることの当然の権利原理であり、いまさら「何で」の感を強くします。これまでも一億の人々は、幸福と平和を求めて懸命に働いてきたのですが、30 年前の労働者派遣法の施行で、労働の現場に「正規と非正規」が入り込み、差別と格差をうみ出し、屈辱と貧困の連鎖が社会に蔓延したのです。

いまこそ寛容の哲学を復権する時期です。

NPO 法人 いしかわ介護ボランティアセンター
さわやかU（愛称）
金沢市西念１丁目 12 番 22 号（労済会館２F）
電話（076）222 － 3337

日本労働組合総連合会石川県連合会
会　長　西田　満明

新年を迎え謹んでご挨拶を申し上げますとともに、日頃からの連合運動に対するご指導・ご支援に心より御礼申し上げます。

現政権は、弱い立場で働く仲間を犠牲にしての成長戦略を推し進め、立憲主義や民主主義の基本に対し極めて傲慢な姿勢をとり続けています。

また、労働者保護ルールの改悪をはじめ、働く者を経済成長の手段としか見ない政策を進めようとしています。こうした政治に対する社会的な対抗軸を組織内外に広く訴え、「上から目線」の政治からの転換と「底上げ・底支え」「格差是正」を実現しなければなりません。春季生活闘争、組織拡大、政策・制度実現の活動、そして与党一強状態を打破するための政治の取り組みを連動させることが極めて重要です。

その上で、「働くことを軸とする安心社会」の実現に向けた連合運動への理解と共感の輪を広げるべく、それぞれの立場で強く発信・行動していきましょう。

本年も、石川労福協をはじめ、各事業団体の益々のご活躍を祈念申し上げます。

本年も、私ども各地域ライフ・サポートセンターにご支援ご協力をいただきますようお願いします。

珠洲・能登地域ＬＳＣ	会　長	坂東　智
輪島・穴水地域ＬＳＣ	会　長	赤田　実
七尾・鹿島地域ＬＳＣ	会　長	角三　外弘
羽咋地域ＬＳＣ	会　長	前田　剛克
河北地域ＬＳＣ	会　長	安江　秀和
金沢地域ＬＳＣ	会　長	綿　征一
白山・野々市地域ＬＳＣ	会　長	油　省三
小松・能美地域ＬＳＣ	会　長	庭田　茂男
加賀地域ＬＳＣ	会　長	山本　哲朗

加賀地域LSC

「第 14 回写真講評会・審査会」

加賀地域LSCは、2015年12月17日(木)大同工業労働組合において「第14回写真講評・審査会」を写真家の中川宏治先生を招き行った。

モデルの部30点、一般の部30点の計60点が出品され、審査の結果、各部門から6点計12点が入賞作品として選ばれた。

中川先生からは、講評のほか、写真の構成の仕方や仕上げ方のコツなど良い作品にするテクニックなどの指導をいただき、今後の撮影活動に有効な情報を得ることができた。

出品作品は、2月に平和堂アビオシティ1階ホールにおいて、「第31回写真展」として展示する予定。

「第７回親子・お友達ケーキ作り」

加賀地域LSCは、毎年恒例行事の「第7回親子・お友達ケーキ作り」を12月5日(土)セミナーハウス「あいりす」において、15組35名の参加で開催した。

講師にブーランジェリー・カナエの金榮先生を招き、レクチャーを受けた後、親子で力を合わせて生クリームを泡立ててから、スポンジケーキを3枚にスライスした。

そして、スポンジケーキに生クリーム使ってスライスした苺をサンドして土台を完成させ、これを崩さないよう慎重にプレートに移し、サンタのマジパン・苺・柿の飾り物・生クリームで思い思いにデコレーションし、ケーキを完成させた。

手慣れている親子は、先生の見本を待たずに独自の仕上げに入ったり、中には苺をうまくカットし、生クリームのデコレーションで上手にサンタクロースを作っている親子もいた。

作業終了後には、出来上がったケーキと一緒に記念写真を撮る人等、楽しそうな様子が伺え、短時間だったが親子のふれあいには有意義な機会となったと感じた。

加賀地域LSC　事務局長　永井　達也

河北LSC

クリスマスケーキ作り

河北地域LSCは、12月20日(日)津幡町文化会館シグナスにおいて、恒例のクリスマスケーキ作りを22家族の参加で開催した。

シグナスの調理台では小さい子どもは作業しづらいのでは無いかと心配したが、怪我なく無事終了した。

参加者には、毎年楽しみにして参加している人も居るが、初参加の方も楽しかったと話していた。我地域LSCの看板行事の一つであり、今後とも続けて行きたいと思っている。

今回の参加者には、全労済「こくみん共済」パンフと北陸労金「マイカーローン」のパンフを配布したほか、給付型奨学金署名に協力いただいた。

河北地域LSC　事務局　吉川武久

白山・野々市LSC

「秋の文化教室」活動

白山・野々市LSCでは12月5日に会員相互のふれあいを大切にし、文化活動を通じて日頃の忙しさの中から「ホット」する機会と「楽しみを共有する」をテーマに「鉢植え＝寄せ植え」を催し、35組がチャレンジした。

参加者は親子連れや職場の同僚など、多彩な顔ぶれで、会場が一段と和やかな雰囲気の中、講師の川端園芸店主からの解説と作り方の説明に聞き入り制作に取り組んだ。

早々とお正月用に、また、クリスマス用にと工夫を凝らした作品づくりに一喜一憂しながら、楽しい会話と作り上げた素敵な鉢植えと共に歳の瀬を前にしたひと時を大切にして、家路についた。

「地域支援」活動

地域のボランテア活動として例年「クリーン作戦」等を行ってきたが、近年環境整備が整い発足当時からの目的に変化を生じてきた今日この頃、「地域」に対して何か課題になる事がないか役員会で検討して昨年に続き好評だったウェス（工場などで使用する油拭き材料）の材料募集とすることに決定して、約２カ月間にわたり材料収集を展開してきた。その結果、約50kgの材料を集められた。昨年同様季節の変わり目が功を奏して「多くの方々に協力頂けたこと」と「少しでも役に立てる意義が今後の活動に生かされれば」との思いです。

後日、集められた材料は社会福祉法人松の実福祉会の横山正英氏に託し、リサイクル作業を通じて社会貢献をめざし自立にがんばっている人達に対し、少しばかりの応援が出来た。

白山・野々市LSC会長　　油　省三

こくみん共済

個人定期生命共済・こども定期生命共済・熟年定期生命共済・傷害共済・個人賠償責任共済・終身生命共済・個人長期生命共済

全労済は、営利を目的としない保障の生協として共済事業を営み、組合員の皆さまの安心とゆとりある暮らしをめざしています。出資金をお支払いいただいて組合員になれば、各種共済をご利用いただけます。

保障のことなら
全労済
全国労働者共済生活協同組合連合会

故下村正一画伯の絵画が贈られる

日本画家、金沢美術工芸大学名誉教授として活躍するとともに石川県勤労者文化協会の創設時から勤文協における文化振興に尽力してこられました故下村正一氏は、2014年８月に享年99で亡くなられ、昨年11月に行われました大衆運動活動家顕彰会において、その功績を称え合祀されました。

「群れ」

この度、遺族で日本画家の下村洋人氏から、故下村正一氏が描いた日本画「群れ」（50号）が勤文協に寄贈され、大衆運動活動家顕彰会の感謝の集いにおいてお披露目されました。

現在、フレンドパーク石川２階ホワイエにおいて展示しております。

※この機関紙は再生紙を使用しています。